

2019年度②

# 民 法

(全 3 ページ)

## 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙・下書き用紙は、この冊子の中に折り込んであります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 解答は指定された範囲に記載すること。「書き終わり」をこえて記載した場合は、採点をしないことがあります。
5. 試験終了後、問題冊子・下書き用紙は持ち帰りなさい。

## 民法②

I 下記についてそれぞれ 80 字以内で説明しなさい。(各 10 点)

- (1) 要式行為
- (2) 特別損害

II 次の問題〔1〕〔2〕のうち、1 問を選択して解答しなさい。

〔1〕 次の事例につき、下記の問いに答えなさい。各問いは独立した問題である。

(100 点)

1. 高級家具屋を営む A は、木材販売業者 B から、国産ヒノキの板材を定期的に仕入れて家具を製造し販売していた。
2. 2018 年 5 月 15 日、B が、ヒノキの板材 100 枚を A に 150 万円で売却する契約を締結し、契約締結の日から 1 か月後に A が B の指定する場所にて本件板材を引き取り、その際売買代金を支払うことを合意した。
3. 契約締結から 3 日経ち、B は、自身の所有する和歌山県の山林からヒノキを切り出し、山林の近くにある加工場兼倉庫に搬入して板材に加工する作業を開始した。
4. 2018 年 6 月 11 日、作業を完全に終えた B は、板材 100 枚を倉庫内に広げた防虫・防湿シートに包んだ後、A に電話をかけ「板材が仕上がりました。今回の板材は、いつもよりも木目が綺麗に出ていまして、気に入っていただけるかと思えますよ。うちの加工場兼倉庫に準備しておりますので、6 月 15 日に取りに来てくださいね。」と伝えた。
5. ところが、2018 年 6 月 15 日を過ぎても A は板材を引き取りに来なかった。アウトレットや量販店の安い家具が人気のために家具業界が不景気で、高級家具がなかなか売れなくなったことから、A は、家具製造をこのまま続けてよいのか、それとも、廃業するか迷いが生じ、なかなか決断できず、板材の引き取りをためらっていたのである。そうこうしているうちに、さらに 2 週間が経過した。
6. 2018 年 7 月 2 日、B は A に対し、7 月 17 日までに板材の引き取りと代金支払をしなければ契約を解除すると告げた。それから 7 月 20 日現在まで、A からは何の

音沙汰もない。

(問い1)

Aが板材を引き取らないでいる間に、木材の市場価格が下落した。そこで、BはAに対し、売買契約を解除する意思表示をした上で、本件板材100枚を100万円でCに売却し、損害賠償を請求した。BのAに対する請求は認められるか。(50点)

(問い2)

Aが板材を引き取らないでいる間に、Bの加工場兼倉庫が落雷を原因とする山火事により類焼し、板材はすべて滅失した。この場合、BはAに対して売買代金支払を請求することができるか。(50点)

[2] 次の事例につき、下記の問いに答えなさい。(100点)

Aは、自宅で大型犬の甲を3年前から飼育していた。甲は飼い犬の中では気性が荒く、また、戸外での運動を欠かすと興奮しやすくなるなど、飼育が難しい種類であったため、甲の世話はもっぱらAが行っていた。しかし、Aが甲を連れて散歩に出かける際に、Aの子B(現在中学3年生)を同伴したときには、Bに手綱を持たせることもあった。

2017年4月19日、Aが留守中、甲が非常に興奮し、激しく吠え出したため、中学校から帰宅したBはAにメールを打って、対応の仕方を尋ねたところ、それは散歩に行きたがっている証拠で、しばらく散歩させてやれば落ち着くから、散歩させてやるようにBに命じる返信があった。

そこで、BはAを伴わないで甲の散歩をさせたことはこれまでなかったが、何とかなるだろうと思い、甲の手綱を引いて散歩に出かけた。

甲は散歩に出ると、吠えることはなくなり、普段Aと一緒にいる時と変わらない状態となったため、Bもひと安心した。ところが、近所の児童公園にさしかかると、黄色い子供用自転車に乗って前から近づいてくるC(小学校3年在学)の姿がBの目に入った。そのとき、これまで大人しく歩いていた甲が急に大きなうなり声をあげたかと思うと、Cの自転車に向かって走り出そうとしたため、Bはあわてて手綱を握りなおし

たが、甲に引きずられる態勢となって躓いてしまい、思わず手綱を離してしまった。甲は一気にCの下に走り寄った。驚いたCは、甲から逃れるため、自転車の方向転換をしようとしたが、このとき道路中央に向かって右回転すれば問題なかったところ、あわてて左回転したため、道路横の幅1メートル、深さ1.2メートルの側溝に自転車ごと転落した。

Cは、この転落により全治3カ月の左腕骨折の重傷のほか、全身に打撲、擦過傷を負った。

Cは、誰に対して、どのような根拠で上記負傷による損害の賠償を請求できるか。